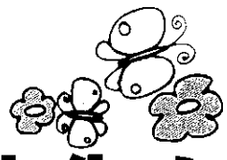
入試インフォメーション



公立高入試、33年度(現小6)から一本化！

（1）平成３３年度から一本化

平成 33 年度入試から、公立高校の入試が一本化されること（受検機会が１回になること）になりました。現小６生が受験する年です。

平成 24 年ごろから、埼玉・茨城・神奈川といった関東の各県で入試の一本化が行われてきました。千葉でも、商業科・工業科といった専門学科では、一昨年から実質一本化されました。それを受け、ここ数年「千葉の普通科でも一本化されるのではないか？いつ一本化されるのだろう？」といったうわさがしきりと飛び交っていましたが、ついに決まったわけです。

県教育委員会によって提示された改善案は次の通りです。

改善方針案

◆ **本検査**

○実施時期： ２月下旬(２日間)

○検査内容： 第１日 学力検査 ３教科

第２日 学力検査 ２教科＋各学校で定める検査＊

＊（面接、集団討論、自己表現、作文、小論文、学校独自問題およびその他の検査のうちからいずれか一つ以上の検査）

○入学願書提出期間： ２日間

○志願または希望変更の受付期間： ２日間

○選抜方法： 学力検査、調査書の内容および各学校の特色に応じて、生徒の多様な能力・適性・努力の成果等の優れた面を多元的に評価できる選抜とする。

◆ **追検査**

○実施時期： 本検査の結果を発表するまでに実施(１日)

◆ **結果発表**

○本検査と追検査の結果を併せて同一日に発表

県教委が示す改善の方向性は「これまでの入学者選抜の理念を継承し、学習の成果に加え中学校での取り組みや活動経験等、生徒の優れた面を多元的に評価できる選抜とする」というものです。要するに、現在行われている＜前期選抜＞の形で一本化するということでしょう。

（2） 一本化のメリット

一本化することによる最大のメリットは、１回入試であれば合格していたはずの生徒が不当に不合格にならずに済むということです。

＜前・後期選抜＞ですと、前期では定員の 60%までしか採りませんから、下位 40%の受験生は不合格になってしまいます。例えば、昨年の千葉西高校では、前期入試で 442 名が受験して 216 名が合格、226 名が不合格でした。これが一本化されると、不合格者のうち 144 名が合格となります。つまり、合格 360 名、不合格 82 名となるわけです。

しかも、前期不合格者の中には、必要のない志願変更をして志望校を下げたり、併願の私立高校に決めてしまったりする生徒もいます。一本化すればそうした不要な志願変更をしなくても済むようになります。

また、一本化すると倍率が大幅に下がるというメリットもあります。例えば、昨年の磯辺高・前期選抜の実質倍率は 2.82 倍と非常に高い数字でした。受検者 542 名に対し、前期の定員が 192 名だったからです。倍率が高いということは、不合格者が多くなるということです。

これが１本化すると、前期で全体定員の 320 名まで合格になります。したがって、実質倍率は 542÷320 で約 1.69 倍まで下がります。

もちろん、現行のように受検機会が２回あることにもメリットはあります。その最大のメリットは、前期で挑戦校を受検することができるということでしょう。１回入試になれば、多くの生徒は“実力相応校”のみの受検とならざるを得なくなるでしょう。

さて、そのどちらのメリットを優先させるかということですが、私は一本化のメリットの方がはるかに大きいと思いますが・・・。

前期選抜基準が明確に！

現行の前期選抜においては、各高校の独自色を出すため、「選抜・評価方法」は各高校にゆだねられています。そのかわり、各高校は自校の「選抜・評価方法」をHP上に公表することが義務付けられています。

ところが、従来、この「選抜・評価方法」があいまいでした。そのため、本来禁止されている“スポーツ推薦”のようなものが、陰で行われたりしていました。

そこで県は、今後このようなことがないよう、平成 30 年度選抜から各校で用いる判定資料は、原則すべて得点化・数値化し、それを合計した「総得点」に基づいて選抜を実施することにし、次のような記載例を示しました。

＜記載例＞〈総得点の満点の内訳〉

学力検査の得点	調査書の得点		2日目の検査		総得点
	評定（算式(1)）	加点	面接	自己表現	
500点	135＋α－m点	65点	40点	60点	800＋α－m点

（算式1）α：県が定める評定合計の標準値 95

m：当該志願者の在籍する中学校の第 3 学年の評定の全学年の合計値の平均値

これをうけ、多くの高校が昨年までより格段に詳しく、かつ明確に選抜方法を発表しています。

たとえば、幕張総合高校は、次のように定めています。

ア．「学力検査の成績」と「調査書の得点Ａ（教科の５段階評価の合計）」の合計で上位 70%以内のものは内定。

イ．アで決まらなかった者は、「学力検査の成績」と「調査書の得点Ｂ（部活動の記録および特記事項。上限 50 点）」に、「第 2 日の検査（面接 20 点）を加えた「総得点」で順位をつけて、予定人員まで内定。

「調査書の得点Ｂ」では、特定の種目（サッカーとかオーケストラなど 28 種目と、英検２級以上などの検定）にも加点することを明記し、その種目および基準（サッカーでしたら「県総体ベスト 8 以上」など）を別表で公表しています。

まだ、加点の内訳まで明らかでないものもありますが、大幅な前進と評価できるでしょう。

31年度(現中２)公立高校入試日程

＜前期選抜＞ 検査 平成31年2月12日(火)/13日(水)

発表 2月19日(火)

＜後期選抜＞ 検査 平成31年2月28日(木) 発表 3月6日(水)